

議長（大西 慶治君） 日程第 2 2 一般質問を行います。

通告の順に発言を許します。

ここでお断りを申し上げます。質問は通告のとおりとし、会議規則第 5 6 条の規定により質問及び答弁を含め、一人 6 0 分とし、内容の変更、追加、関連質問は原則として認めないこととします。

質問も答弁も要領よくお願いいたします。

通告順 1 番 山本勝征議員の一般質問を行いますので、山本議員は質問席へ移動してください。

（ 3 番 山本 勝征議員 登壇 ）

議長（大西 慶治君） それでは、通告順 1 番 山本勝征議員の発言を許可します。

山本勝征議員。

3 番（山本 勝征君） それでは平成 2 2 年第 1 回の議会にあたりまして、一般質問をさせていただきたいと思います。

今回は二点ほど町長のお考えを確認したい、このように思っています。ちょうど改選期にあたりまして町長も私たちも無投票という形で当選させていただいたんですけれども、しっかり今期も頑張りたいと、このように思いますのでどうぞよろしくお願いいたしたいと思います。

1 点目、町長の公約についてということでお伺いしたいと、このように思います。合併後、2 回目の選挙において町長は対抗馬もなく無投票で再選を果たされました。同じく私たち議会議員も無投票当選となり、結果は思わぬこととなりました。合併後、4 年間はたちましたが町の現状は、一年一年確実に過疎化と高齢化が進んでおります。今後、4 年間は今まで以上に課題が山積している現状であると思います。将来を見据えた施策を進めなければならないと考えますが、その中で町長は二期目にあたりまして、次のような公約と言いますか、掲げておりますけれども、私はその二つについてお伺いしたいと、このように思います。

午前の施政方針である程度、理解させていただいたんですが、もう少し具体的に御答弁をお願いできればと、このように考えております。

一つは『自然と人々が幸せに暮らすまち実現を目指して』とあり、7項目の公約を掲げてみえます。私はそのうちの2項目について伺うんですが、その1項に地域資源を活用した産業振興を進めますとあります。そして野菜、お茶、シイタケ、水など町の地域資源のブランド化などを進め、販路拡大に努めるとともに、こうした地域資源を活用した産業振興を進めるとあります。過去の4年間において具現化されていなかった感がありますが、具体的な構想があればお示しをいただきたい。

二つ目は、7項目に協働によるまちづくりを進めますとあります。そして町民の皆様との協働によるまちづくりを推進するため、情報公開をさらに進めるとともに暮らしの身近な課題を住まいの近くで解決できる支所、出張所の機能を充実してまいりますとありますが、このことについてもう少し具体的にお示しいただきたい、このように思います。

議長（大西 慶治君） 町長。

町長（尾上 武義君） それでは山本議員の御質問にお答えをいたします。

まず1点目の地域資源を活用した産業振興についてでございますが、本町の基幹産業でございます農林業を充実させることが、地域産業の活性化につながるものと考えております。そのために町では農林産物の特産品の開発に取り組むとともに、農林産物の加工施設及び直売施設の整備や、地元産木材を活用したプレカット工場を整備するなど、地場産業の振興に努めてきたところでございます。

特産品としまして、清流宮川をイメージしましたナチュラルウォーター、森の番人、あるいは宮川上流の種苗センターで生産されます宮川産の鮎とか、あるいはきれいな水を使いました宮川清流米、あるいは宮川物産やふるさと耕房おおだいで加工されましたキャラブキなどの地域資源を活かした数多くの加工品があります。

しかしこういった特産品を継続して生産していくためには、生産者の高齢化や後継者不足、獣害対策、販路拡大等々、多くの課題がございます。生産者一人一人が意欲を持って取り組んでいただくには、安定した収益が得られる取り組みが必要と

考えております。

本年度は三重大学と宮川物産が連携しまして、シカ肉を利用しました商品を開発し、地域特産品として売り出していく取り組みを進めているところでございます。また三重大学と民間企業の提携によりまして、ゆず栽培の取り組みを始めたところでございます。この取り組みは町内で栽培しましたゆずの皮を民間企業に化粧品の原料として買い取っていただいて、ゆずの実は宮川物産の加工品の原料として活用するといった計画でございます。

道の駅の主力商品でありますシイタケにつきましては、生産時期が限られることから年間をとおしての生産と高齢化による後継者対策が課題となっております、引き続き町の特産品として生き残っていくために、生産者の皆さんの現状把握に努めるとともに先進地視察も行いつつ、各地域で原木や菌床シイタケ栽培が広められないか、その方策と支援策を検討してまいりたいと考えております。

また道の駅では地元の鹿肉とシイタケを使用したジビエバーガーに加えまして、町民の皆様にご地元食材を使用したオリジナルバーガーのアイデアを募りまして、試作品をつくり本年5月頃をめどに販売を開始する予定でございます。町を元気にしたい、こういう思いでスタートさせました取り組みで、町の活性化につながればと期待をしているところでございます。

大台ヶ原が育む水は当町自慢の地域資源でもございまして、年々環境が悪化するなか、世界的にも飲料水に対する関心が高まっており、この清澄な水と特産品のお茶を関連づけた新たな産業の可能性についても検討していきたいと考えております。また来年度は町の貴重な地域資源でございます、お茶を活用しまして、インフルエンザ対策などの健康推進として、小中学校にうがい用の給茶器を備えることとしております。子供たちがこうした身近なところからお茶に親しんでいただくことによりまして、お茶への関心を持っていただくことが、町内での消費拡大あるいは地産地消というようなことで、そういったものを目指すこととあわせまして、地域で生産された多品目の野菜につきましても保育所や小中学校の給食の材料として使用する、地域内循環システムの構築を検討してまいりたいと考えているところでござい

ます。

ほかにも町内に埋もれた地域資源を有効に活用した産業振興についても検討してまいりたいと考えているところであります。さらに町内の人材も地域資源という視点に立ちまして、町内に現存する熊野古道伊勢路を観光客と一緒に歩きながら、歴史や自然について案内されておりますふるさと案内人など、地域で活動する各種団体を支援し、観光産業の振興につなげていきたいと考えているところでございます。

次に協働によるまちづくりでございますが、このことにつきましては、町民の皆様との協働によるまちづくりを推進するため、情報公開をさらに進めるとともに、暮らしの身近な課題を常に近くで解決できる支所、出張所の機能を充実してまいりますと、政策課題の一つに掲げました。協働によるまちづくりにつきましては、近年、地方分権が進められ、これまで国が行ってこまされたさまざまな事務や権限が地方へと委譲され、地方自治体として自主的なまちづくりが可能となる一方、各地方自治体がみずからの決定と責任でまちづくりを進めることが、強く求められることとなってきました。

しかし厳しい経済情勢や情報化社会の進展、住民ニーズの多様化、高度化などを背景にこれまでの行政主導によるまちづくりでは、地域の特性を活かした個性豊かなまちづくりを進めていくことが難しくなっております。そこに暮らす人々が真に望むまちづくりを進めていくために、町民と行政が同じ目線でともに知恵を出し合い、ともに努力を積み重ね総力をあげて取り組む協働のまちづくり、町民が主役で地域が主体のまちづくりが必要であると考えているところであります。そういった私の考えに御理解を賜り、各地域で町民の皆さんと行政が協働して、資源のリサイクルや道路周辺環境美化、生ゴミの堆肥化あるいは子育てサークルなど多くの事業が取り組まれてまいりました。今後より一層の協働を推進するためには、町民の皆様にもできるだけ町の持つ多くの情報を公開し、ともに考えともに理解する中で、まちづくりを進めていきたいと考えております。また行政も地域にお邪魔し、地域の皆様との信頼関係の中で、ともに汗して地域それぞれの特性を活かした地域づくりを支援するため、今後、順次支所、出張所に予算と権限を与えるなど、出張

所の機能を強化してまいりたいと思います。

本年度は大杉谷出張所に続き、領内出張所の機能を強化してまいりたいと考えております。以上、行政課題についての御質問にお答えいたしました。元気のある地域がふえてまいりますように、町民の皆さんとの協働に積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、御理解をお願いし答弁とさせていただきます。よろしく申し上げます。

議長（大西 慶治君） 山本議員。

3番（山本 勝征君） それでは再質問をさせていただきたいと思います。町長の公約でございますので、そうあれやこれや言うこともありませんし、ぜひ4年間のうちにしっかり具現化していただいて、よいまちづくりをしていただきたいというふうに思っております。

しかし、一、二、町長の考えを再質問でお聞きしたい、このように考えております。よろしく申し上げます。農林業の充実という非常に大事なことでありますし、ありがたいことであると、このように思います。新しくゆずのことが出てきました。宮川物産との連携でゆずの普及というようなことをしていただくようなんですけれども、それと鹿肉は三重大との研究ということで、これも新しく、鹿肉は新しくはありませんけれども、今後、開発していくというようなことですので、ぜひ町の特産品として進めていただければと、このように思います。

そこで私は一つ水とお茶ですね。これについて、ほかにもあるんですが、お茶と水につきましては、やはり販路が非常に大事なのではないかと、このようには考えているわけなんです。この販路をしっかりとやっていただかないと、なかなかうまく今後いけないんじゃないかと、特にお茶の場合、非常に低価格になってしまって、生産者の意欲が非常になくなってくるんじゃないかと、このように考えております。

今年の施政方針の内容、予算の内容を見ますと、昨年以上に新植であるとか改植であるとか、その他の応援の予算がついておりますので、ある程度本腰を入れ始めたんだなというような気持ちを持っております。しかしなかなかまだまだこれではお茶農家を励ますような形には私はならないと思いますので、そののところをもっ

と もっと力を入れて、お茶農家を激励していただかなければならないんじゃないかと、そうやないと特産品にならないと。町の産物になっていかないんじゃないかと、価格低迷という点からしても、販売と同時に生産者農家の支援をしていただかなければならないんじゃないかと、このように考えております。このことについてさらに町長のお考えを聞かせていただきたい。

それからシイタケも力を入れていただくということですが、この間ある会議でこういうことを言われました。『山本さんよ、宮川のシイタケというのは昔から非常に品質もよくなって、干シイタイですけれど、干シイタケの品質がよくなって、大変好評やったと、そこが今大台町はシイタケ組合の出荷も非常に少なくてほとんど力を入れてない、大台町は一体何をしておるのや。』ということで話されました。ところが猿害で何ともならんのですわと言うたら、その猿があかんと言うとるからあかんのやということで、猿は山奥に住むもともとの動物なんやで、それを追いやってしまったら、山奥へ行ってしまふ動物なんやで、そのようなところからしっかりせなあかと、なかなか難しい問題ですけどなと言って話をしたんですけれども、そのように旧宮川地域におけるシイタケというのは、地形的にも気候的にもいい品質の乾燥シイタケがとれる、全国的にも優秀だったということを知りました。だから、もっとしっかり力を町も入れて、その乾燥シイタケを特産品にしたらどうやというようなことで、激励されたのか怒られたんかわからんような言い方をされましたので、そのようなところ町としても力を入れてやっていただくことを、指導していただければどうかと。確かに栽培すると私も少しだけやっておるんですけれども、猿の害で何ともしかたないんですけれども、人工ほだ場的なものをつくって、そして栽培をして乾燥シイタケをしていくと。この施政方針の中でも、今年から大杉に加えて領内地域も活性化のために取り組むというようなことのように思いますが、大杉とか領内あたりにも町として人工ほだ場的なものをつくって、組織もつくらないかんと思いますけど、内職的な高齢者の仕事の事としてできやんかと、その点についてもどういうふうに考えるか、町長の主な考えを聞いておきたいと、このように思っております。

他の町村の人もそうやってして、大台のシイタケのことを一生懸命に真剣に心配してくれて、もっと頑張れよということで、だいぶ尻を叩かれましたので、町としても力をいただきたいとこのように思います。

それから、一点目はそのことなんですが、それから二点目につきまして、協働によるまちづくりを進めるということについて、いろんなことを言われたんですが、その中で人材を資源として考えるということと言われたんですけども、大変結構なことですし、やはり地域づくり、あるいはまちづくり、国づくりはやはり人から始まるというふうに思いますので、人を育成するということですね、人の資源ということも大事にしていきたいと、このように思います。

さらにその人的資源以外に私はこの頃、観光産業というんですか、政権が変わりまして、国交省の前原大臣ですか、大臣になってから私、観光産業これをやるということで、何回かあの人の言葉の中で聞いたんですけども、やはり観光も産業の一つの位置づけていただきたいと、このように思うんです。

大台町、特に宮川地域においては自然景観がすばらしいものがあります。沿道の春は桜あるいは秋の紅葉、水、川ですね、こういうような、それから自然の風景、すばらしい景観資源というものがあるわけですから、これもひとつこれから売りに出していただいて、これも力を入れていただいて、ぜひ観光産業というのも目玉にさせていただいて、取り組んでいただければありがたいと思うんですけども、この協働するまちづくりの中において、そういうようなこともいろいろなところで入れていただければ、このように思いますので、そういうようなことについて町長の再答弁をお願いいたしたいと思います。

議長（大西 慶治君） 町長。

町長（尾上 武義君） ありがとうございます。

まず水なりお茶の確かにこの販路といいますか、そういったものについては、とりわけこのお茶について、非常に茶価が下がってきておるということで、大変経営も厳しいなってきたおるという状況がございます。そういう中でやっぱり去年あたりも路の駅にもものぼりをかけたり、それからこの役場の前で「急須でお茶を飲みま

しょう」というような垂れ幕をつくったり、意識といいますか、そういったようなものを少し持っていただく、また役場の中でもペットボトルでお茶を出すというようなことやなしに、産地なんですから、いわゆる急須でお茶をだして会議中に飲んでもらうというような、そういう意識から変わっていかなあかんようなことでもございます。それにはちょっと話がそれますがキャラブキなんかでも、それぞれの旅館でちょっとした前菜につけていただくという、そういったような意識というのが非常に大事なかなというふうに思うんですが、今回、先ほどの方針でも申し上げましたように、子供たちのうがいというような形で健康増進というふうなことで、この春先からやっていこうかということで、給茶器の整備も予算化してあるようなことなんですが、そういったようなことから少しずつでも発信をしていかないかなと、こういうふうに思っております。

静岡県の島田市で結構大きな米の記事が出ていまして、これは産地としての取り組みやなというふうなことから、いわゆる地産地消というふうなことも含め、そしてまたリーフ茶の普及という、そのことが非常に大事ですし、少しでも地域でお茶が消費されておるというふうなことも、非常に大事なことでございますので、そこら辺のとっかかりもしながら、また発信もしながら対応してまいりたいなというふうなことを思っております。それがどのような効果になってくるかというのはいわかりませんが、一つ一つの取り組みということが、まず大事なのかなと思っております、すぐさま茶価が上がってくるとかというようなことは、大きな消費構造の中のことでございますので、やはりお茶が持つ効能というようなものを広めていく中で、少しでも消費が上がってくればなと、そういうふうなことを思っているところでございます。

私なんかもそういう意味では、セールスマンのなともあるのかなと思っておりますので、今後先ほどの観光ではありませんけれども、やはりお茶とか観光とかいうようなこと、密接に結び付けながらやっていく必要があるのかなというふうなことを思っているところでございます。

それから、シイタケのお話をいただいたんですが、このことについては山本先生

と私、同じ考え方です。昨年、大杉谷出張所に増員したわけなんですけど、その中でもやはり生活の足にも困ってみえる方もおる。しかし今の生活をエンジョイするといっただけではいかんで、やっぱりそこでみんなで協働しながら働けるといっつか、それこそ小遣い銭といっつか、そういったようなものを取れるようなところで、みんなが寄ってきてワイワイやりながらでも、健康づくりとかあるいは生きがいづくりとか、そういったようなものにつながっていくという、そのことが非常に大事なのかなと思っておるんです。

そういった延長線上で、例えば一人でも二人でも三人でも、そういったようなことも副業でもいいんですから、生業にしながらやっていけるようなことにつながっていけばなと、そんな思いも持ちながら、そこら辺も模索していくようにということで、指示をさせていただいたところでございます。

今回、領内でもそういう集落対策をやっていくようなことなんですけど、グラウンドなんかも空いてきておるといっようなこともございますし、そういったようなことの中で施設等の整備も含め、組織化も当然やらしてもらわんならんですけど、施設の整備等々も含めて対応していきたいなと思っております。そのことが地域の中で生きがいが出る。また地域の元気が出てくるといっようなことを願っておるようなことでもございます。そういうことですぐにといっことは、なかなかないかもわかりませんが、しっかり対応してかないかなといっようなことも思っておるところでございます。合わせまして、この宮川だけやなしに、大台地域でもどんどんシイタケをつくってもらっておりますので、そういったようなことについてももう少し生産をあげられるようなことで、そのシイタケ組合も含めそしてまた市場のほうですね、そういったようなところで、対応いただければなと思っております。

先だっても農協の生産者大会が長島町で、伊勢の長島町ですけれども、行われたおりにちょうど大阪市場の会社の方もみえてまして、その方にはおとし原木シイタケをとってくれと、いっくらでも売れますんで、一番先へ売っていくといっようなことなんです。そういう話を聞きましたので、あなたの話はおとし聞いたと、

それで絶対忘れておらへんで、今回こういうふうにつくっていくようなことをわたしは思とんで頼むなというようなことでお願いしたいんです。

原木のいい人、菌床のいい人、いろいろ趣味はありますよというふうなことでもございますが、質のいいものはよく売れていくというふうなことで、そのものをきっかけにしながら、いうたら水の産地でもあるけれども、シイタケの産地でもあるよと、お茶の産地でもあるよというふうなことを、いろんな一次産業で元気にしておる町なんやというようなことを、若い人からおとしよりまで頑張っやっておるやと、そういうものかできてきたら、本当に町は元気になっていくんやないかなと、こう思っているところでございます。そういう思いで進めさせていただきたいなと思っております。

それから、この観光産業というふうなことで、お話をいただきました。確かに観光だけのみならず、そのリーダーといいますか、そういったもの非常に大事なことでございまして、そのことがもうこの頃は、見ておいしいものを食べて帰っていくということやなしに、やはりそこで体験し人と交流しながら、その地の歴史とか伝統とか、ものの考え方とか生きざまとか、そういったようなものを求めてやってくる人もいると思うんですね。そういったようなものを含めながら対応していかないかん。

そして、またこの観光というのは、地域の生活といいますか産業ですか、非常に大きな広範な影響を及ぼしてくるもんだと思うんですね。宿泊したら宿泊施設へ泊まらんならん。そこでまた消費が発生するということなんですけども、ここへ来ていただくものがあるかどうかということですね。確かに自然はいいんですけども、どこへ行っても自然はいいんだというんですね。熊野のほうでも尾鷲のほうでも紀北のほうでも、伊勢志摩のほうでも自然はみんなええんだと、それぞれがええんだええんだと言うと、どこがどのように違うんかという、その差別化と言いますか、そういったようなことも大事なんかなと思うんですが、やはりちょっとした知恵とか、そういったようなものがかなり左右するような部分もあるんかなと思います。

今回、熊野古道の伊勢路で、馬鹿曲がりのところに橋を地域の皆さん出させていただいてつくっていただいたんですけど、そういったようなことの中で、熊野古道の売り出し、こういったことについても大阪あたりから300人、400人というようなツアーを組んでやっていただくというようなこともございますので、そういうようなこととか、この地はわりあい昔は木材の集散地やったんですけど、人が寄り集まりやすい位置にあるところです、大台町は。

熊野のほうからも伊勢志摩のほうからも、あるいは北のほうからも寄ってきやすい。そしてまた奈良のほうへ行けるといって、そういう地点にあると思うんですね。そういう意味では人が集散しやすいところを利用しながら、前にもゲートボール協会の人も言うたんですけど、県内のゲートボール協会の皆さんに、このふれあい会館にお集まりいただいて、ゲートボール大会をやるんですけども、350人から400人くらい来るんです。来たときに大げさな話やないですけども、あそこのサークルKが空っぽになるというくらいあるわけです。

それはもったいないんで、準々決勝くらいとっついてくれよと。取っついて、数十人に泊まっていたということ、そこでまた消費が発生してくるというようなこともありますので、いろんなことがちょっとしたことで、俳句もやったりとか、写真とったりとか、あるいは散策したりとか、いろいろな素材はあると思います。それを受けて自然という環境がすばらしいとか、いろいろなものが引っついてくる。そうすると相乗効果が出てくるというようなこともあるんじゃないかと思ったんです。そこら辺をどのように活かしていくかというのが、これからの課題でもありますけれども、まずは熊野古道の伊勢路とか、そういうようなことで頑張ってもらっている、奥伊勢歴史学習会の皆さん方もみえますし、そういったような方々がやっているということにヒントを得ながら、ほかでもこんなことできるやないかというような部分もあれば、これは大変大きな相乗効果になってくるのかなというようなことも思っているところでございます。

そういうことで一つ一つですけども、対応していかなければならんなと思っ
ているところでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（大西 慶治君） 山本議員。

3番（山本 勝征君） それでは、二つ目の問題に移りたいと思います。2項目めは6月から高速道路の無料化が始まります。このことについてお伺いしたいと思います。政権が変わりまして公約の一つに高速道路の無料化があります。全線無料化とか今回ありませんでしたが、町を走っております近畿自動車道紀勢線の路線も無料化の対象となっております。

社会実験として6月から実施されるようですが、その効果はプラスに作用するのか、または町にとってマイナスとなるのか、計り知れないところがあります。このことについて無関心ではいけないと考えますが、町は次のことについてどのように考えているのかお伺いしたいと思います。

まず一つ目は町の活性化への影響について、どのような予測をされているか。もう一つは町の経済に与える影響について、どのような予測をしているのか。それと三つ目は町としての対策はあるのか、ないんか等についてお伺いしたいと思います。

議長（大西 慶治君） 町長。

町長（尾上 武義君） それでは高速道路の料金無料化の影響についてお答えをいたします。国は流通コストが安くなることによりまして、生産コストも安くなることや、産地から消費地へ商品を運びやすくするなどにより、地域と経済の活性化を図ることを目的として、段階的に高速道路の無料化を実施することとしております。国土交通省は本年2月2日に高速道路無料化による地域経済の効果、渋滞や環境への影響を把握することを目的としまして、本年6月から高速道路の一部区画について無料化の社会実験を実施することを発表いたしました。この社会実験の対象区間には、県内の伊勢自動車道及び紀勢自動車道の津インターチェンジから伊勢インターチェンジ及び紀勢大内山インターチェンジ間が含まれておりまして、すべての車両を対象に平成23年3月まで実施をされることとなりました。

この高速道路の無料化が町に与える影響についてですが、現在の高速道路料金は一部の路線を除いて、土、日、祝日の上限料金を1000円とする割引や、平日の全時間帯に3割引きを導入するなどETCを活用した割引が実施され、町内を走る

紀勢自動車道もこの割引制度により交通量がふえておりますが、本年6月からの無料化によりさらに交通量が増加することが予想されます。交通量の増加によりまして、渋滞や環境への影響などはマイナスとなることが予想されますが、町への入込客が増加し観光関連産業を始め地域製品の消費や売上増につながるのではと考えております。

また流通コストの削減、効率化により農林水産業、商工業等の各分野において経済的なメリットを生み出すとともに、地域産業の活性化による新たな就労機会の創出も期待できるものではないかと考えているところでございます。

また勤務地が遠い人にとりまして、高速道路の利用で通勤時間が短縮され、町内からの通勤が可能となり、過疎化の歯止めになればと期待をしているところでもございます。

しかし高速道路の交通量は増加する反面、国道42号などの交通量が減少することが予想されます。町の活性化、経済の波及効果をもたらすためには、高速道路利用者の皆様を町内へ誘導することが重要であると考えております。そのため奥伊勢パーキングを活用し、町のアンテナショップ的な役割を持ち、優れた地域資源等を積極的にPRし町への集客を高めていかなければならないと考えております。

また今回の無料化は対象区画が短いため、遠くから観光客を呼び込む効果があるかは疑問でございますが、伊勢自動車道も無料化の対象区画となっておりまして、式年遷宮をひかえ多くの入込客が予想される伊勢志摩と南三重を一つの観光エリアととらえた、新しい観光ツアーの企画などを南三重地域活性化事業の推進協議会と連携して、旅行会社などへも働きかけ、集客を高めていきたいと考えておりますので、答弁とさせていただきます。

議長（大西 慶治君） 山本議員。

3番（山本 勝征君） 簡単に再質問させていただきます。

この高速道路の無料化いろんなものを見てみますと、結構マイナスであるという意見というんですか、考え方が結構あるように思います。町は今の答弁ですと、そうマイナスではないみたいな考え方の方ですけども、私もやはりプラスに考え

るようにしていただいて、いろいろな施策をやっていていただきたいとこう思います。23年まで一応社会実験として政府はやるといようなことですが、やはりゆくゆくももっともっと広がってくる可能性がありますので、それへの対応をやはりしておいていただきたいと、こういうふうに思います。

その無料化によって例えばですが、大きな影響を受けるというのが、JRなんかもそうらしいです。インターネットを見てみると6社とも大きなマイナス、何百というようなマイナスが出てくるだろうというふうに予測しております。それからフェリー会社ですか、これも非常にマイナスの大きな会社だはそうでございます。帝国データバンクですか、ここによるとフェリー会社が結構倒産するんじゃないかというようにも出ているようです。

町も高速道路の無料化があったら、近くも遠くも予測は非常に難しいと思いますけれども、先ほどから町長も言われたように通勤する人は津までは無料ですわな。だから混雑するかわかりませんが、結構通勤者にとってはプラス面が出てくる。そうすると大台町も津、松阪への通勤が非常に楽になってくるだろう。大台町に家を建てようか、大台のアパートは安いさかい、アパートに入ろうかというようなことも出てくるかもわかりませんので、そういうような点もプラス思考にできるだけ考えていただいて、私はやっていただきたいと、このように思います。

その高速道路の無料化がだんだんふえてくる。これはまだわからんことですが、延びてくるのではないかというふうには思いますので、それについて町長はどういうふうに考えておられるのか、非常に難しいテーマであるかもわかりませんが、今の町長、その場合に町長はどういうふうに町をしようとするか、ちょっとそのことだけお聞きしておきたい。将来のことにわたってお聞きしておきたい、このように思います。

議長（大西 慶治君） 町長。

町長（尾上 武義君） 平成18年に大宮大台インターができて、ストロー現象というふうな形になってきて、道の駅でも減収になったようなわけですが、町内のガソリンスタンドとか食事所とか、あるいはコンビニとか、そう

いったところも影響は大きく出てきているというような状況もございます。ですので、それがこの無料化で解決できるかというたら、なかなかそうはいかんだらうということがあると思います。やはりここへ向いてお客さんを引っ張ってくるというようなことになると、どうしても大台町へ行きたいよというものがないといかんといいことですね。

先ほど申し上げました、この熊野古道なり、すばらしい自然のことなり、いろんな大台町の発信、その材料をどんどんやっていかざるを得ない、そうしていかないかんといいことを、強く思っているところでございます。そういうことでこういった無料化も例のマニフェストの中では、全部無料化になるんかなと思ったらそうではなくて、一部にとどまったということなんですけれども、こういった無料化あるいはそういった無料化の路線というものが、将来延びていくということになるんかなとは思いますが、多少でも。そうなったときにより遠くへというふうなことで、足を運びやすい状態になると思うんですが、やはりそのときにやはりここへ来たいというそのものですね、そしてまたここでいろんなものを開催するという、先ほどのゲートボールやありませんけれども、今回この3月にも還暦野球の皆さんが、9チームか10チームおよりいただいて、ここで2日間にわたって大会を開くようなんですけれども、そういったものが非常に大事だということで、それで一泊もされるようになったらいいですが、そのような取り組みが町内のいろんなグループの中で出てくると、非常にこれはスポーツと観光とかいうのはこれは結びつきもでございます。そういうものが非常に大事やというふうに思っております。

熊野市さんも大学生とか高校生とか、あるいは実業団とか、いろいろなキャンプをやられるようなこともあるようですね。そしてまた全国的なレベルも大会もやられるということなんです、その時に一番走者には熊野市始め紀北町とか尾鷲とか、新宮とか、そちらのほうで宿泊されるようです。非常に大きな影響が出ておるというようなことがありますので、私の頭の中にはそういったスポーツ的なものも含めながら集客というようなものも考えていく必要があるだろうと、昔の観光のように温泉につかってどうということだけではないかん。プラスしたものが大事やとい

うふうなことも思っております。ただそれはやっていただく人が大事ですので、そこら辺も知恵を絞る、いわゆる政策立案能力というのは、職員に求められてくるのやないかなということを考えているところです。

以上です。

議長（大西 慶治君） 山本勝征議員の一般質問が終了しました。

議長（大西 慶治君） しばらく休憩します。

再開は2時ちょうどとします。

（午後 1時45分）

議長（大西 慶治君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時00分）
